



TITLE:

現金の流通と預金の増減

AUTHOR(S):

小島, 昌太郎

CITATION:

小島, 昌太郎. 現金の流通と預金の増減. 経済論叢 1935, 40(1): 284-315

ISSUE DATE:

1935-01-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130533>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第十四卷 第一號

昭和十年一月一日發行

新年特別號

免稅點以下の小所得者への地方課税.....	法學博士 神戸正雄
勢力關係の性質.....	文學博士 高田保馬
ブラジルに於ける移民制限問題.....	法學博士 山本美越乃
政策研究に就て.....	經濟學博士 作田莊一
農業政策の擔當者としての産業組合.....	經濟學博士 八木芳之助
漁村經濟調查論.....	經濟學士 蜷川虎三
私經濟との比較による財政の本質.....	經濟學士 中川與之助
自由主義の論據.....	經濟學士 柴田敬
フランス・フランに就いて.....	經濟學士 松岡孝兒
山口藩に於ける幕末の洋式工業.....	經濟學士 堀江保藏
支拂準備の法定に就て.....	經濟學士 中谷實
獨乙の漁場入會制度に就いて.....	經濟學士 岡本清造
積荷單獨海損填補方法の吟味.....	經濟學士 佐波宣平
ロッシャーの歴史的方法.....	經濟學士 白杉庄一郎
經營信任會の效果に就いて.....	經濟學士 大塚一朗
貿易統制の制限性と促進性.....	經濟學博士 谷口吉彦
酒税の改正.....	經濟學博士 汐見三郎
現金の流通と預金の増減.....	經濟學博士 小島昌太郎
國益主法掛について.....	經濟學博士 本庄榮治郎
新着外國經濟雜誌主要論題.....	

現金の流通と預金の増減

小島 昌 太 郎

一、序

言

通貨といへば、普通、金銀銅貨や兌換券が思ひ浮べられ、世の中の支拂は、大抵、このような現金を以て行はれて居るものと見做され易い。併し、今日の實際に於ては、現金なるものが支拂の決済に於て働いて居る程度は、金額の上から言へば、むしろ、僅かであつて、主に働いて居るのは、銀行の預金である。預金が預金のまゝで支拂の決済に働いて居るのである。

今、銀行に預け入れられる通貨なるものは、その日に世の中で支拂の決済に働いたものが、落ち付く所に納まつた有様であるといふ見地から、我が國の實際について、銀行に預け入れられる通貨を観察するに、總預け入れ金額の中で、僅に凡そ一割五分が現金で、残りの八割五分は、手形小切手などの類であつて、すなはち、この部分は預金が預金のまゝで支拂の決済に當てられて居るのである。

かやうに銀行預金といふものは、支拂決済の上に於て、重要な通貨たる働きをして居るのであるが、その成り立ちから見ると、二た通りある。銀行の貸出と關係なく出来た預金と、貸出の手

取金が振替へられて出来た預金とである。すなはち、實質的な預金と創作的な預金とに區別し得る譯である。このいづれも、或は現金を以て引出されて、支拂に充てられ得るものであり、また預金のまゝで支拂に充てられ得るものである。

然らば今日銀行の預金なるものには、實質的なものと創作的なものと、いづれの方が多いかと言へば、創作的なるものの方が遙かに多いといはねばならぬ。今日に於ては、政府若しくは民間が、銀行よりいろいろの形式の下に貸出を受けて、その手取金が、借手の、若しくは、借手より支拂を受けたものの、預金として存在するものの方が、かゝる貸出關係なくして存在する預金よりも遙に多いのである。實質的な預金は、むしろ甚だしく僅少である。銀行の貸出といへば既に預金せられたものがあつて、それが貸出されて居るものと考へられて居るかも知れないけれども、多くの事實はむしろ逆であつて、銀行より貸出されたものが、その貸出を受けたものゝ手から他人に渡つて、その人の預金となつて居るのである。

この小論に於て試みた所は、銀行なるものを中心とする今日の金融機構の下に於ては、かくの如く、(一)預金せられた資金が貸出されて居るといふよりも、むしろ、貸出された資金が預金せられて居るのであるといふこと、(二)このやうな預金が、通貨として頗る大いに働いて居るといふこと、(三)現金なるものも、かゝる預金が引出されて働いて居る一つの形に過ぎないものだといふことを明かにせんとするにある。

通貨の流通、預金の増減といふことは、金融の外形として、その全面を占むる事柄である。然るにその流通し増減する所のものゝ本質に立入つて調べて見れば、要するにそれらは銀行の貸出に裏付けられて出来たものと見るの外はない。果して然らば、經濟機構の全活動の圓滑無碍なる運行に於て、銀行なるものが頗る微妙なる働きをなしつゝあることに今更驚かざるゝであらう。

二、現金の流通

今日の經濟機構に於ては、何人といへども、手許に直ちに支拂に必要とするよりも以上の現金をもつことゝなるならば、その必要以上の部分は、銀行に預け入れる。ときとして、當分手許に多額の現金を保持して居るといふやうな場合もない譯ではないが、それはむしろ例外である。従つて銀行以外に存在する現金なるものは、その社會に行はるゝ目前の取引に直ちに必要なるだけの額に止まるのであつて、餘分の現金が多く存在することはない。今日、吾々は、一般に銀行なるものを信頼し、且つ銀行に預けた預金なるものゝ價值に疑惑をもたないからである。

市中の各銀行すなはち普通銀行には、日々現金を以てする預け入れもあれば、引出もある。従つて、常に、手許に若干の現金をもつて居る。そして、この手許現金の額が、預金の現金引出の準備として必要な額以上に達するならば、その超過額は直ちに日本銀行に預け入れる。もし、手許在高が、現金準備として不足を告ぐるに至れば、また直ちに、日本銀行に對して、現金を以

てする拂出の請求をする。それは、預金があれば預金の引出として、預金がなければ、手形の割引若しくは擔保貸付としての貸出を受けることによつて。

かくて、世間に存在する現金の額なるものは、目前の取引のために必要な額と、各銀行に於て支拂準備として必要な額とを、合計したものに外ならぬのであつて、それ以上の額に於ても、それ以下の額に於ても、久しく存在することはなく、日本銀行を源泉として、鋭敏に伸縮するのである。

現金を以て支拂はるゝものは、今日に於ては、主として、廣い意味に於ける、小賣取引である。廣い意味といふのは、單に有形商品の小賣取引ばかりではなく、交通賃金とか、觀覽料とか、遊興飲食代とかこれらのものを含めた意味に於ていふのである。俸給勞賃ももとより現金を以て支拂はれる。併し、俸給勞賃の受領者は、その受取りたる現金を、主として生活費に充てるのである。すなはち、これも、右の意味に於ていふ所の、小賣取引のために支拂ふこととなるのである。従つて、現金通貨なるものゝ流通量は、一般に、小賣取引の隆替と共に、増減するものと見て差支はない。そして、小賣取引の隆替に直接關係をもつ主要なるものは、俸給勞賃である。俸給勞賃の支拂高が、賃金の引上げによるか就業者數の増加によるか、いづれにするもその額が増加するときは、その支拂のために多くの現金を要することとなり、かくて増加的に支拂はれたる現金は、また主として生活費として小賣商に支拂はれ、小賣取引の隆盛を來し、小賣物價の一般的

なる騰貴を齎らし、そのためにまた多くの現金を要することとなる。俸給勞賃の一般的なる支拂高が減少する場合には、これと反對の經過を現はす。

小賣取引が、右のほか、或は國民の大多數を占むる農民購買力の増進により、或は、貿易の隆盛により、または、爲替の暴落により、その取引量の増加若しくは取引代價の騰貴を來すときは、現金通貨の流通量を増加し、その反對の場合には、これが減少を惹き起すものである。

かくの如く、現金通貨なるものは、小賣取引の隆替と共に、増減するものではあるが、併しその現金の必要なるは支拂決済の場合に於てあるから、例へば店頭に於ける謂はゆる現金取引の如く、商品と引替へに現金の支拂をなす取引が増加するときは、現金通貨の流通量を恒常的に増加することとなるけれども、小賣取引といつても、その支拂が積算して一定の期日に至つてなさるゝもの、例へば月末掛け拂ひのものなるときは、現金の必要なるは、その支拂の決済期に於てであり、その他の時期には現金を必要としない。

従つて、小賣取引に於て、謂はゆる帳付け、すなはち月末拂勘定が多く行はるゝ慣習の存する場合には、小賣取引が隆盛になりたればとて、現金通貨は、單に、月末に於て一時的に増加するに止まり、月の中旬その他に於ては、取引量の増加に正比例するの増加を示すものではない。

我が國の慣習に於ては、小賣取引も月末拂ひのもの多く、且つ勞賃には、週拂、十五日拂のものなほ譯ではないけれども、これも多くは、月末近くの支拂であり、俸給に至つては、全く月

末近くの支拂である。そして、小賣商の卸賣商に對する支拂も、現金拂のものは主として月末より月初にかけて若しくは翌月末に於て行はるのである。それゆゑに日本銀行兌換券の發行高は、常に月の中旬に比較的少くして、月末月初に比較的多くなるのである。また従つて小賣取引が隆盛となるときは兌換券の發行高は増加するけれども、月末に於けるその發行高の増加率の方が、

月の中旬に於けるその増加率より著しく大きいのである。

日本銀行兌換券發行高月末日及月央比較		
	11月中旬平均發行高	11月末日發行高
昭和7年 (a)	(13日-19日) 987,543	1,154,657
8年 (b)	(12日-18日) 1,056,313	1,240,095
9年 (c)	(11日-17日) 1,106,891	1,318,665
7年より9年への増加 (c-a)	119,348千円	164,008千円
その割合 $\left(\frac{c-a}{a}\right)$	12.08%	14.63%
8年より9年への増加 (c-b)	50,578千円	78,570千円
その割合 $\left(\frac{c-b}{b}\right)$	4.78%	6.33%

月の中旬に於ける比較の増加率よりも多いことを明かに示して居るのである。

例へば上に示す如く、最近の昭和九年十一月中旬の兌換券平均發行高を昭和七年十一月中旬のそれに比べると、その増加歩合は、二二・〇八%であるが、これをその兩月末日に於て比較すると、増加歩合は一四・六三%であつて、月の中旬よりも月末の方が二・五五%だけ多く、また九年十一月中旬の平均發行高を、八年十一月中旬のそれと比較すると、その増加率は四・七八%であるけれども、これも、その月末に於て比較すれば、六・三三%であつて、月末の方が月の中旬よりも一・五五%だけ多くなつて居る。すなはち、兌換券發行高が一般に増加の傾向を示して居るときには、月末比較の増加率の方が、

小賣取引は主として現金を以て支拂はれ、従つて、現金通貨の流通量は、小賣取引の隆替と共に増減するものであるけれども、而も、小賣商に支拂はれたる現金は、そのまゝ世間に轉々流通して、滯留するものではない。小賣商は、翌日の自家の生活費に必要な金額及び若し卸賣商または生産者より現金を以て仕入をなすものなるときはその仕入に必要な金額を考慮して、その賣上金のこれに超過する部分は、直ちに銀行に預入れる。卸賣商や生産者のなす支拂は、多くは、月末拂若しくは手形拂であるから、彼等はその受取現金を殆ど總て直ちに銀行に預け入れる。かやうに餘れる現金は直ちに銀行に預け入れられるのであるから、月末近くに於て、銀行より現金が引出され、小賣商に對して、多額の支拂がなされても、それはまた直ちに、銀行に還り來るのである。月末に於て特に兌換券發行高の増加する理由がこゝにある。

現金なるものは、人に最も好かるゝものゝ一つであるけれども、また最も手許に多く置かないことを欲せられるものである。

三、預金通貨の流通

小賣取引は主として現金を以て支拂はれるけれども、卸賣取引を初め大量巨額の取引の支拂は、主として、小切手若しくは手形を以て決済せられる。すなはち、小賣商の卸賣商に對する支拂の中には、尙ほ、現金を以て決済せられるものもあるけれども、その取引高の稍々大なるものに至つ

ては、小切手若しくは手形を以て決済せられるのであり、卸賣商の生産者に對する支拂、生産者の原料、機械、動力などの供給者への支拂、政府の支拂等は、殆ど總て小切手若しくは手形を以て決済せられる。従つて、こゝに現金以外のものが通貨として働くこととなる。

現金以外に於て通貨として働くものは、銀行の預金である。小切手若しくは手形は、この預金を通貨として働かしむるに當り用ゐらるゝ道具である。

小切手なるものは、原始的には、記名人若しくは所持人に對して直ちに現金を支拂ふべきことを銀行に委託したものであるけれども、今日、小切手を受領するが如き人々は、大抵、銀行に預金勘定をもつものであるから、これは現金に換へらるゝことなくして、そのまゝ取引銀行に預け入れられる。すなはち、この場合に於て、支拂は現金を用ゐることなくして決済せられるのであつて、支拂人の預金が受取人の預金に移ることによつて、その支拂が決済せられることとなり、銀行の預金が預金のまゝで通貨として働くのである。

手形は、遠隔の地に對する支拂に用ゐらるゝ爲替手形たると、將來の支拂が約束せらるゝ約束手形たるとを問はず、いづれも、受取人は、取引銀行を通じてその取立をなすものであり、且つ多くの場合に於て、支拂人も亦、自己の取引銀行をして、自己に代つて、自己の預金より支拂はしめるものである。ゆゑにこの場合に於ても、支拂人の預金が受取人の預金に移ることによつて、その支拂が決済せられることとなる。そしてこの場合に於ても、預金が預金のまゝで通貨と

して働いたのである。

かくの如く、銀行の預金は預金のまゝで支拂の決済に充當せらるゝことが出来、通貨として働くものである。銀行なるものゝ機能の發達が、現金を用ゐることなくして、支拂の決済をなすことを可能ならしむるに至つたのである。預金がかやうに支拂の決済に充當せらるゝとき、その預金は預金通貨といはれるのである。そして、預金を預金のまゝで支拂の決済に充當するに當つて、その手段たるものは、前述の如く主として、小切手、爲替手形、約束手形であるけれども、その他如何なるものも、苟も銀行と預金者との間に於て、かくの如く取扱はるゝことに諒解ある所のものなれば、預金通貨の手段として用ゐられることが出来る。

我が國に於ける預金通貨の流通状態を見るに、東京手形交換所月報に載せられたる、全國組合及び代理交換銀行月末日收納高の示す所によれば、昭和九年十月末日に於て、東京手形交換所加入銀行の總預金高は、二六六、五五五千圓であつて、そのうち現金は僅に一九、七三七千圓で、その割合、僅に七分四厘に止まり、残額の二四六、八一八千圓、割合に於て、實にその最大部分を占むる九割二分六厘は手形小切手による預け入れである。銀行への預金は、その當日若しくは前日に於て、世間に行はれたる取引決済のあとの落ち付く先であるから、これを以て、世間に於ける通貨として、如何に預金が預金のまゝで働いて居ることの多いかを知り得るであらう。

また、これを東京以外の都市について見るも、大阪に於ては、現金と手形小切手との割合は、

	現金	手 形				合 計	割		合	
		自 行 宛 振 替	他 行 宛	小 計	割 分 厘		他 行 宛	現 金		手 形 小 切 手
東大 京 阪 戸	19,737 51,750 6,413	43,953 91,167 50,400	202,865 196,726 37,939	246,818 287,873 88,330	割分厘 1 7 8 3 1 7 5 7 1	割分厘 8 2 2 0 8 3 4 2 9	266,556 339,643 94,752	割分厘 7 4 1 5 2 6 8	割分厘 9 2 6 8 4 8 9 3 2	
京 横 名	7,804 2,796 8,347	9,821 8,128 12,125	20,528 10,283 17,981	30,349 18,411 30,106	5 2 4 4 4 1 4 0 3	6 2 6 5 5 9 5 9 7	38,153 21,207 38,453	2 0 5 1 3 2 2 8 1	7 9 5 8 6 8 7 1 9	
小 計 (6ヶ所)	96,847	215,594	486,322	701,916	3 0 7	6 9 3	798,763	1 2 1	8 7 9	
長 崎	445	2,329	344	2,573	8 6 6	1 3 4	3,018	1 4 7	8 5 3	
福 島	547	209	15	924	9 3 3	6 7	771	7 0 9	2 9 1	
其他28ヶ所共小計	28,684	20,972	20,618	41,350	5 0 2	4 9 8	70,074	4 0 9	5 9 1	
全 國 合 計	125,531	236,366	506,940	743,306	5 1 6	6 8 2	868,837	1 4 4	8 5 6	
前年同月合計	133,716	209,726	557,014	766,740	2 7 4	7 2 6	900,456	1 4 9	8 5 1	

一五二に對する八四八であり、京都に於ては、二〇五に對する七九五である。六大都市合計に於ては、一二二に對する八七九で、六大都市を除く全國三十箇所(内、宇都宮及び盛岡を除く)の總計に於ては、四〇九に對する五九一であり、全國三十六箇所總計(宇都宮、盛岡を除く)に於ては、一四四に對する八五六である。最も現金比率の大なるは福島(七〇九對二九一(當日の預入總額七七一圓))であり、最も現金比率の小なるは、神戸の六八對九三二(當日の預入れ總額九四、七五二

千圓)である。六大都市以外に於て現金比率の最も小きは、長崎の一四七對八五三(當日の預入れ總額三、〇一八千圓)である。これによつて、凡そ、現金なるものが案外通貨として働くこと少くして、預金がそのまゝで通貨として働くことの大なるを知り得るであらう。

四、潜在通貨の成立

右に述ぶる如く、今日に於ては、銀行の預金なるものは、必ずしも、現金を以て引出されて、支拂の決済に充てらるゝ準備たるものではなく、現金にて引出されることなくとも、預金の形のまゝで支拂に充てらるゝことも出来るものである。すなはち、預金なるものは、現金の形をとりて通貨となり得ると共に、預金そのまゝの形に於ても通貨となり得るものである。それゆゑに、預金そのものとしては、このいづれかの形に於て通貨として働くまでは、潜在状態に於て通貨たるものと認められ、潜在通貨と名づけられて然るべきものである。

かくて、銀行預金は潜在通貨であり、それが通貨として働くには、或は現金の形をとり、或は預金の形のまゝで支拂に充てられる。そして、銀行の預金には、我が國の普通銀行に於ては、當座預金、特別當座預金、定期預金、通知預金等があるけれども、そのいづれのものも潜在通貨たるに於ては變る所がない。かの定期預金の如き、一定の期間は引出すことを得ないものであるから、その期間内は通貨となることを得ず、満期日に到つて初めて通貨となることを得るものゝ如

き觀を呈して居るけれども、實際に於ては、この定期預金を擔保として、貸出を受け、若しくは、當座借越をなすことによつて、何時にても支拂に充てることを得るものであつて、潜在通貨たるに於て、他種の預金と異なる所はない。

かくの如き潜在通貨たる預金は、如何にして成り立ちたるものであるか？ 原始的に言はゞ、銀行の預金なるものは、現金の預け入れられたるものである。すなはち、預け入れられたる現金が、預金に他ならぬのである。併しながら、銀行機構の發達は、現金の預け入れなくして、預金の存在することを可能ならしむるに至つた。それは、銀行が貸出しをなす場合に、その貸出金額を現金を以て交付することなく、貸出と同時に、それを一應、そのまゝ預金として立て、置くか、若しくは、預金の引出と同様の方法を以て引出すことを承諾するかによるのである。

ゆゑに、この場合に於ては、預金は實質的に生じたのではなくして、銀行と資金の借手によりて創作的に生ぜしめられたのである。併しながら、かくの如く、創作的に生ぜしめられたる預金といへども、これを支拂の決済に充て得る點に於ては、現金の預け入れより成る預金と何等の異なる所はない。すなはち、これを現金に引出して支拂に充てることも出來ると共に、それを引き當てに、小切手を振出すことによつて、預金のまゝで支拂に充てることも出來るのである。

五、創作的預金の成立

創作的預金といふは、右に述べる如く、貸出手取金によつて成立する預金である。創作的なる預金を、その預金者すなはち資金の借手たるものが、小切手を振出して、支拂に充てたる場合に於て、その受領者がこれをそのまゝ自己の預金となし置くときは、こゝに創作的なる預金の移轉がある。この場合に於て小切手受領者の預金は、彼自身にとりては、何等銀行の貸出と關係なくしてもつ所の預金であるけれども、實は、その預金は、小切手振出人が銀行より受けたる貸出の上に依存して成立したものである。すなはち、この小切手を以てする支拂によつて、最初に借手であり且つ預金者であつた所の甲は、たゞ借手としてのみ存続することとなり、彼より支拂を受けたる乙が、甲の預金者たる地位を承け繼いで新らたに預金者となるのである。ゆゑに、この場合に於ける乙の預金が、創作的預金の繼承なることは明かである。

併しながら、創作的預金の預金者が、その預金を現金を以て引出して支拂に充てたるときは、その間の事情は多少錯雜を來すこととなる。その場合に於て、もしも、受領者がこれを自己の預金とすることなく、自ら保持するときは、創作的預金者甲が、銀行より借り受けたるものはそのまゝ残存して、預金は消滅することとなり、従つて銀行預金一般としても、この關係に於ては、他に増加する所なくして減少を來すだけであり、その代りに、銀行の手持現金が減少して、世間に於ける現金流通量を増加することとなる。その現金が、銀行に預け入れられることなくして、そのまゝ轉々流通する限りは、最初創作的に増加したる預金が、減少したるまゝに存続して、世間

の現金流通量を増加の状態に於て存在せしむることとなる。

この場合に於て、創作的預金者甲より現金を以て支拂を受けたる乙が、その現金を銀行に預金するか、若しくは、乙より以後、轉々支拂を受けたる何人かが、これを預金することとなるならば、こゝに一應増加したる世間に於ける現金流通高がそれだけ減少すると共に、銀行の手持現金が増加し、且つ預金も亦増加する。そして、この預金の増加は、前に減少したるものを補填した譯である。かくて、この場合に於ける乙の、若しくは、彼より支拂を受けたるものゝ預金は、現金を以て預け入れられたるものであるけれども、最初、甲が創作的に預け入れたる預金の繼承たるに過ぎないものである。それは、甲より現金の支拂を受けたる乙が即座にこれを自己の預金となしたる場合に於て、その預金が創作的預金の繼承たると、結果に於て、異なる所はない。

六、實質的預金の成立

創作的預金は、かくの如く、先づ、貸出に對應して成立し、且つ、或は小切手の振出により預金のまゝにて所有者を代へ、或は一旦現金にて引出されて、後再び、預け入れられて新らたなる所有者の預金となる。ゆゑに、預金なるものは原始的に見れば、現金の預け入れられたものであると言ふの他なきものであるけれども、今日に於ては、現金を以て預け入れられたる預金も亦、必ずしも、實質的なる預金ではなくして、創作的なる預金たることもあるのである。

かくの如くに見來るとき、こゝに、實質的な預金は如何にして生ずるか、といふ問題に當面することとなる。個人的立場に於て言へば、或人が、銀行より貸付割引を受けることなくして作成したる預金は、それが小切手の預入れより成ると、現金の預入れより成るとを問はず、彼に於ては、實質的な預金である。併しながら、金融機構の全般より見るときに於ては、その小切手若しくは現金を彼に支拂ひたるものが、それを銀行より貸出を受けることによりて支辨したのであるならば、かゝる預金は實質的預金ではなくして、やはり創作的預金である。支拂者の創作的預金の受領者への移轉である。實質的預金たるからには、その當初より何等借入關係と對應的に成立したものでないことを必要とする。

實質的な預金の成立は——既に成立して居る預金に對し更に附加的に成立したるときは、その新らたなる成立、すなはち増加は——、貨幣制度の如何によりて、必ずしも、その事情を同じくしない。今、我が國の現行の制度に於てこれを言へば、實質的預金の成立は金地金が貨幣的金となりて預金せられる場合に限られる。もし、政府の勘定に屬するもの、換言せば國庫を以て、世間の金融界と別な存在と認めるときは、政府の支拂金が、その受領者によつて、預金せられる場合に、これも民間預金としては、實質的なものと見做さなければならぬ。

我が國の制度に於ては、金貨本位制を採用し、且つ、「金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ」(貨幣法一四)として居るから、金を採掘し、精煉し若しく

は海外より輸入したるものまたはこれを譲受けて所持するものは、純金の量目二分を以て一圓の割合に於て、五圓以上の金貨幣に製造すること請求することが出来る。この場合に、かくの如くにして得たる貨幣を銀行に預金するときは、こゝにその金額だけの實質的預金が成立する。

勿論、今日に於ては、金の市價は著しく騰貴し、且つ日本銀行に於ては、その指定したる一定の産金業者に對しては一度を拾壹圓六錢に於て買入れるのであるから、金地金の所有者にして、それを金貨幣に製造せんことを請求するものがあるべき筈はない。ゆゑに金貨幣への製造請求は行はれずして、日本銀行への賣却が行はれる。日本銀行へ金地金を賣却したるものが、その賣却代金を銀行へ預金するときは、その金額だけが實質的なる預金となる。

金地金が實質的預金となるは、商品たる金が貨幣的金(金貨幣若しくは兌換券發行準備たる金)となつて通貨と化し、それが預金せられたるによるのである。ゆゑに、金地金が實質的預金となるには、金貨幣に製造せられるか、日本銀行に賣却せられるか、(政府が買入をなす場合には政府への賣却も含む)このいづれかによりて得られたる手取金が、預金せられたる場合に限る。これ以外の場合、例へば、市中の貴金屬商に金地金を賣却して、その代金を預金しても、それによつて新たに實質的なる預金の成立とはならない。この場合に於ては、その金地金は、依然、商品として残存するもので、貨幣的金とならないからであり、これを他面より言へば、貴金屬商の銀行預金が出されて、金地金賣却者の預金となつたに過ぎないからである。

次に――我が國の制度では、今日、さうなつて居ないが――もし政府によつて政府作成の貨幣が直接に支拂に充てらるゝものなるときは、それを受領したるものが、これを預金することによつて、實質的なる預金が成立する。こゝに、政府作成の貨幣といふは、世間に於て現金として取扱はるゝものにして、政府の作出したるものである。政府が、その所有にかゝる金地金を以て本位貨幣たる金貨幣を製造したるときは勿論のこと、銀貨幣、白銅貨幣、ニッケル貨幣、青銅貨幣などの補助貨幣を製造し、若しくは、紙幣を製造して、これを政府の支拂（歳出）に充てたる場合に、その受領者が、これを銀行に預入れたるときは、それだけ實質的なる預金となる。

今日に於ては、我が國には政府紙幣が發行せられて居ないけれども、嘗ては、明治元年發行の太政官札を初め、民部省札、大藏省兌換證券、開拓使兌換證券、新紙幣、改造紙幣、豫備紙幣等があつた。それらは、後、次第に、新紙幣若しくは改造紙幣に引換へられ、更に、或は一度國立銀行紙幣に引換へられ後、日本銀行兌換券に引換へられ、或は直接日本銀行兌換券に引換へられ、今日に於ては、總て日本銀行兌換券の中に吸收せられて仕舞つたのである。これらの政府紙幣が未だ國立銀行紙幣若しくは日本銀行兌換券に引換へられない以前に於て、それが政府の支拂に拂出され、民間の受領者がこれを預金とするならば、こゝにも實質的預金の成立が認められる。

我が國に於ては、今日、右の如き政府紙幣は全くなり、政府が作成する現金通貨としては、補助貨幣たる硬貨だけである。この補助貨幣は、政府が現行の制度の下に於ては直接にこれを支拂

に充てることは全くなく、それらは作成と共に日本銀行に預け入れられて、特殊の政府預金となるのである。そして、それらが、世間の流通界に出て行くのは、市中銀行を通じてである。詳しく言へば、市中銀行がその取引先より補助貨幣を以て預金の引出（若しくは貸出の請求）を受けたるときに、その手許準備としての補助貨幣に不足を來すに至りたる場合に、日本銀行に對し自行預金の引出し（若しくは貸出の請求）として補助貨幣を以てする支拂を受けたるときである。従つて、かくの如くにして、流通界に出て行つた補助貨幣が、市中銀行に預け入れられても、それは前に引出されたる預金の預け戻しであつて、實質的な預金の成立ではない。もし、それが貸出の返済として市中銀行に納入せられたものであるならば、預金の成立と關係なきは言ふまでもない。

かくの如く、我が國の現行制度の下に於ては、政府作成の貨幣は政府によつて直接に支拂に充てらるゝことなく、日本銀行及び市中銀行を通じて、預金の引出若しくは貸出の請求により初めて流通界に出て行くのであるから、政府作成の貨幣の預け入れは、預金の預け戻したるに過ぎない。もとより個々の人々に於ては、新らたなる預金の成立たる意味をもつ場合もあるけれども、預金一般として見れば、その場合にも甲が引出して支拂つたものを、乙が預け戻したことになるのである。

日本銀行兌換券の預け入れは、實質的預金の成立とはならない。兌換券が世間に存在するのは、預金を引出すことにより若しくは貸出を受けることによるのである。これが、貸出の返済として銀行に納入せられたるときは預金とならないのは言ふまでもなく、預金として預け入れられても、

前に引出されたる預金の預け戻したるに過ぎないからである。

實質的預金の成立といふことについて、更に注意すべきことは、政府の勘定すなはち國庫を一般金融界より分離して、これを別のものとして觀察し、政府預金の成立が實質的なか創作的なるかといふことより全く絶縁して、民間の預金のみについて見る場合である。

この場合に於ては、銀行預金なるものは、政府より民間へ支拂の行はるゝことによつて實質的に増加し、民間より政府への支拂の行はるゝことによつて實質的に減少する。我が國の現行制度の下に於ては、政府の支拂は、日本銀行に政府がもつ所の預金を引當てに振出さるゝ小切手を以て總て支拂はれ、現金を以て支拂はれることはない。——郵便局に於ける貯金、年金、保險金、鐵道停車場に於けるつり錢などの場合を除いては、政府が現金を以て支拂ふことは全くない。

ゆゑに政府より支拂を受けたるものは、その政府小切手を銀行に必ず預け入れる。この預け入れを受けたる銀行は、これを日本銀行に於ける自行の預金とすることによつて（若しくは自行の借受金の返済とすることによつて）、預け入れ人の預金として立てる。この場合に於て、預け入れ人は、その預け入れの小切手によつて、日本銀行に於ける政府預金（銀行の預け金）に振替へられることによつて、その銀行に預金をもつこととなるのであつて、民間に於ける何等の貸出勘定と對應的にこの預金をもつことゝなつたのではない。ゆゑに、この預金はその意味に於て實質的預金と見做し得る。

もとより、この場合に於ても、政府が小切手拂出の引當てとなす所の預金は、或は實質的なる預金たることあり、また、創作的なる預金たることもある。政府所有の金地金若しくは謂はゆる在外正貨の振替によつて成る預金、または租税その他の政府収入若しくは公募公債の手取金より成る預金は、政府の立場に於て、實質的預金であり、公債を公募によらず日本銀行に引受けしめ、その手取金を預金とするときは、創作的預金である。従つて、本質的にこれを言へば、實質的なる政府預金の民間預金への移行は、民間預金の實質的なる増加であり、創作的なる政府預金の民間預金への移行は、實質的預金の成立ではなくして、創作的預金の繼承たるものであるけれども、いま、政府勘定すなはち國庫を、一般金融界の外にあるものとして取扱ひ、政府預金の性質が如何なるものたるかより絶縁して、全く別なものと見るとき、政府預金の性質の如何が、それより支拂を受けて成る所の民間の、すなはち、一般金融界の、預金の性質に乗り移らないものである。かくて、例へば今日現に行はるゝ如く、政府が、公債を發行して日本銀行に引受けしめ、その手取資金を以て支拂をなす場合に於ては、市中銀行に於て、漸次、實質的預金が増加の傾向をたどると見做し得るのである。

七、預金の増減

實質的預金の成立（既に成立せるものへ更に附加的に成立すること、すなはちその増加）は、右に述べたるが如く、金地金の貨幣的金となりたるもの——金貨幣若しくは、その金地金を準備と

して發行せられたる兌換券——を預金とすることによりて生ずるのであり、また、政府の勘定すなはち國庫を一般金融界と別物として取扱ふときは、政府より支拂として受けたる小切手を預金することによつて生ずる。實質的預金の成立は、この外にはない。そして、創作的預金の成立は、銀行よりの貸出に對應して生ずるのであつて、主として、割引貸付、若しくは貸越を受けたるものが振出したる小切手を預金することによつて生ずるのである。

かくの如くにして、實質的に、若しくは創作的に、成立したる預金が、現金を以て引出さるときは、それだけ預金としては減少し、現金通貨としては増加する。それが再び預け入れられるときは、一旦減少したる實質的預金若しくは創作的預金が、それだけ回復(増加)する。そして、政府以外のものは、金地金を貨幣的金たらしむるより外には、貨幣を作出し得ないものであり、かゝる貨幣を預金とするか、若しくは政府小切手を預金とするにあらざれば、實質的預金は成立せしめ得ないものであり、また創作的預金は貸出に對應するのでなければ、成立せしめ得ないのであるから、これらの事柄を除けば、預金の減少は、現金通貨の増加であり、現金通貨の減少は預金の増加である。これ以外に於ては、世間の商取引が如何に隆盛となるも、または株券社債等の有價證券の發行並びにその現物の賣買が隆盛を極めても、または、その反對に衰微しても、預金は増減するものではない。

預金の減少は、現金として引出さることによりて生ずるばかりでなく、金貨兌換若しくは金

地金引換の行はるゝ場合には、日本銀行より金貨兌換、金地金引換をなすことによつても生ずる。その外、一應現金として引出さるゝと否とに拘はらず、租税、專賣代金、納付金、手数料、郵便貯金、郵便年金掛金、簡易保険料など、凡そ一切政府への支拂に充てられることによりて生ずる。更に預金の減少は、國債公募の場合に預金者がそれに應ずることによりても生ずるし、若しくは日本銀行または市中銀行の手持にかゝる有價證券を買入れることによつても生ずる。

また、創作的預金の場合に於ては、これを創作したる所の貸出が、預金の振替を以て返済せられたるとき、貸出の減少と共に預金の減少を來すのである。

例へば、製造業者が銀行より貸付を受けたる資金を以て、原料を買入れたる場合に於て、原料商人がそれを預金とするならば、貸付に對應する所の預金が創作せられる。そのとき預金一般として、それだけの増加を見る。然る後、その製造業者が、製品の買手より小切手を受取りこれを以て前の貸付の返済に充つるときは、貸出の減少と共に預金一般としての減少を見ることとなる。

また、例へば、商人が荷爲替手形の割引を受けたる資金を以て、生産者への支拂に充てたるとき、彼がこれを預金とするならば、その割引金額に對應する所の預金が創作せられる。すなはち預金一般としてはそれだけ増加を來す。然るに、その荷爲替手形の支拂人が、これが支拂をなすに當り、自己の取引銀行に宛てたる小切手を以て決済したるときは、その支拂人の預金の減少となり、預金一般として減少を見ることとなる。

かくの如き、商取引とその決済より生ずる創作的預金の増減は、常に行はれつゝある所であつて、多數のものが、多くは相殺的に働き、景氣の上昇期には、この關係によりて、大體預金の増加を見ることゝなり、下降期には大體減少を見ることゝなる、すなはち、景氣の上昇期に於ては、貸出の増加と共に預金の増加を來し、その下降期には貸出の返済と共に預金の減少を見るのである。然るに、我が國に於ては、或るときには、この貸出増減の關係によりて、預金が甚だしく増加し、また或るときには、甚だしく減少することがある。その著しきものとしては、貿易の出超期と入超期とが交互に來るがゆゑに、爲替手當の關係より生ずるものがこれであり、また株式取引所に於ける短期代引制度及び長期早受渡制度より生ずるものもその著例である。

今、代引關係によつてこれを説明すれば、株式の取引所取引に於て、短期取引が盛行し、先高氣配の下に代行機關が、代引（若しくは假引）する株數が増加すれば、代行機關が銀行より貸付を受くる金額が次第に多くなる。この貸付を受けたる資金は、現株の引渡者に支拂はれ、彼の預金となる。それゆゑに、代引株數の増加に従つて、銀行預金は創作的に増加することゝなる。然るに、投機熱が沈靜し、株價の下落を見るに至れば、短期に買立てをなし居たるものは遂にこれを賣放つことゝなり、そのとき、これを買受けたるものが、現株の引取をなすときは、彼の預金が減少し、代行機關は、その受入代金を以て前に貸付を受けたる資金を銀行に返済する。思惑を以つて買立て、失敗して賣放ちたるものは、現株の引取もなさず引渡をもしないのであるから、た

ゞ値下り損額だけの銀行預金の減少があるのであつて、その金額は、これを値下りの場合に於ける買手の代金に加へて丁度代行機關の貸付を受けたる金額に相當するものである。かくの如き次第であるから、代引株數の増加は、銀行預金の増加を來し、その減少は、銀行預金の減少を惹き起す傾向をもつものである。

預金者が預金を以て國債の公募に應募し、若しくは、日本銀行手持の國債または市中銀行の手持ちにかゝる國債その他の有價證券を買入るゝ場合には、それだけ預金の減少となることは、前に述べたる所である。國債公募の場合に於ては、預金者の市中銀行に於ける預金の減少が、日本銀行に於ける一般預金(民間預金)の減少を來して、政府預金に變はるからであり、銀行より買入れの場合には、銀行が代金として小切手を受取ることは、他に何等振替へられる所なくして預金の減少となるからである。

併しながら、預金を以て有價證券を買入るゝにしても、銀行以外のものゝ所有する有價證券を買入るゝときは、預金の減少を來すものではない。買手が銀行に持つて居つた預金が、賣手の預金に替るだけである。預金者が、銀行の手持ちになる有價證券を買入れる場合には、銀行に於て、手持有價證券の減少と共に、その預金の減少となる、尤も、預金者は、自己が預金せる銀行より、直接に、その手持ちの有價證券を買入れるが如きことは殆どない。併し、彼が證券業者より國債、地方債、社債、株券等を買入るゝことが——そのときは、彼の預金が證券業者の預金となる——有價證券の市價の騰貴を齎らし、銀行の手持有價證券の賣放ちの機運を作り、證券業者がそれを

買受くるときは、こゝに銀行の手持有價證券の減少と證券業者の預金の減少とを惹き起すこととなる。かくの如くにして、銀行手持の有價證券が賣れ行くことが、預金者の預金が證券業者の預金に移り、更に銀行に支拂はるゝことによりて、預金の減少を來すこととなるのである。

地方債、社債、株式の公募の場合に於ては、應募者の預金が、これを發行したる地方團體若しくは會社の、市中銀行に於ける預金に振替はるだけであるから、市中銀行の預金に増減はない。併し、國債の公募の場合に於て、市中銀行の預金者が、その預金を以つてこれに應募するならばそれがため、その銀行が日本銀行に對して支拂をなすだけ、應募者のその銀行に於ける預金は減少することとなる。そして、市中銀行より日本銀行に支拂はれたるだけ、一般預金の金額が政府預金に移ることとなる。もし、市中銀行自らが、國債に應募し、若しくは、近來行はるゝ所の謂はゆるオペレーションにより日本銀行所持の國債に買應するならば、その銀行の日本銀行にもつ所の預け金（一般預金）が減少して、政府預金となるだけであつて、その銀行がもつ所の取引先からの自行に於ける預金は、何等減少する所はない。

八、通貨の膨脹と收縮

預金の成立並びに増加減少の事情は右に述べるが如くである。この預金の増減は、すなはち潜在通貨の増減であり、預金通貨並びに現金通貨の膨脹收縮を可能ならしむる所の通貨母體の増減

である。

現金通貨たる日本銀行兌換券流通高の増減は、前に述べたるが如く、小賣取引の隆替に伴ふものであり、且つ、補助貨幣について前に述べたると同様に、その増加は、先づ市中銀行に於ける取引先よりの預金の引出し（若しくは貸出の請求）が兌換券を以て行はるゝことによつて、市中銀行の手許準備金の減少を惹き起し、次にその銀行がこれを補填するために、日本銀行に對して兌換券を以て預け金（一般預金）の引出（若しくは貸出の請求）をなすによつて起るのである。その減少は、兌換券を以てする市中銀行への預金の預け入れ（若しくは貸出の返済）により、手許準備現金が過剰となりたるときに、その過剰部分の日本銀行への預け入れ（若しくは貸出の返済）として納入せらるゝことによつて起るものである。ゆゑに兌換券の發行は、預金の引出し若しくは貸出の請求によつて起り、その收縮は、預金の預け戻し、若しくは貸出の返済によつて起るものである。つて、その銀行への預入は新らたに實質的預金を成立せしむることとはならないものである。

兌換券の膨脹收縮は、新らたに實質的預金を成立せしむることゝはならないけれども、ときとして、これが、創作的預金の永續的存在を齎らすことゝなることもある。例へば、景氣の上升期に於て、一方に於て生産者及び商人は、銀行より貸出を受けて事業資金となすがゆゑに、彼等より支拂ひを受けたるものゝ預金は創作的に増加し、それらはまた他方に於て、俸給勞賃の支拂ひ若しくは生活費の増昂と共に、小賣取引の隆盛に伴ひ現金として引出されて、兌換券の流通量を

増加することとなる。然るに、これが一度、反動期に入りて景氣の下降を來すに至れば、小賣商人は、仕入を手控へて、その賣上金の預金となす割合を増加することとなり、兌換券は收縮して、預金は増加する結果となる。ゆゑに、かゝる不況期に入りて、前に銀行より貸出を受けたる生産者若しくは商人がその貸出を、他の何人よりか支拂はれたる小切手を以て返済することを得ば、貸出の減少と共に預金も減少することとなるのであるが、若しも、彼がその事業に失敗して、銀行が貸出を回收すること能はざることとなり、その貸出が遂に切り捨てらるゝの已むなきに至るときは、こゝに前にその貸出によりて創作せられたる預金のみが、縦ひ、轉々してその持ち主を替へるにしても、貸出の消滅にかゝはらず残存することとなる。

不況期に入りて、銀行が謂はゆる不良貸付を整理切り捨ててゐることは、往々これある所であるから、景氣變動の波は、預金の増加を齎らすものといふことが出来る。併しながら、また、かゝる場合には、往々、銀行自身の倒産を見ることがあり、倒産に至らずとも整理の已むを得ざるに至ることがあり、その結果、預金も亦切り捨てらるゝこともある。然るときには、預金の減少を來すは言ふまでもない。

かゝる事情を除いては、銀行預金なるものは、國內取引が如何に隆盛となり若しくは沈滞するとも、それによつて増減を來すものではない。たゞ外國貿易の隆盛により、金の流入を見るときは、その金の貨幣的金となることによつて預金が實質的に増加し、反對に貨幣的金が海外に流出

するときは、それによつて、預金の實質的の減少を見るは、前に述べたる所である。

九、預金通貨の活動と遊資の増加

銀行に於ける預金の増減の事情は右に述べたるが如くである。それらは、結局、貸出若しくは預金の切り捨て整理の場合を除いては、支拂の決済と受領とによつて起るものである。すなはち、それが通貨として働くことによつて起るのである。而も、通貨として働くにしても、預金が現金を以て引出されて支拂に充てられ、また支拂の受領として得たる現金を以て預金に預け入れられる金額は、預金のまゝでの支拂受領に充てられる金額に比べて甚だ僅少なるは、前に述べたるが如くである。併し、いづれにするも、通貨として働く部分の預金は、銀行に於て常に可動状態のまゝに置かれて居なければならぬのは言ふまでもなく、これを何等かの形のものに投資して、固定状態に置きては現金としても、または預金のまゝとても、引出の請求に應ずることが出来なくなる。この可動状態に置かれたるものが、支拂準備であり、これは、現金準備と日本銀行への預け金（謂はゆる一般預金）とより成る。現金準備は、言ふまでもなく、現金の引出に應ずるものであり、日本銀行に於ける預け金は、手形交換所に於ける交換尻決済に充てらるゝものである。

預金は、如何なる種類のものも潜在通貨であり、それは或は、現金通貨として、或は預金通貨として、活動し得るものである。併しながら、また、常に必ずしも、その全額が通貨として活動

するものではない。その活動するはむしろ甚だ小部分であつて、大部分は不動の状態にある。昭和九年十月末日に於ける全國組合代理交換銀行の預金總額は、凡そ六十八億圓であるが、同日に支拂はれたる總額は大體、八億七千萬圓と推定せられる。すなはち、この日だけについて言へば、凡そ預金の一割三分位が通貨として活動するのであつて、残部の八割七分は潜在通貨ではあるが、潜在状態のまゝで靜止して居るのである。ゆゑに銀行に於ても、この部分は、平常支拂準備よりは解放し得ることとなり、投資に向けることが出来る。

併しながら、これについては一つの注意すべきことがある。それは、實際の支拂準備は更にこれよりも少額にて可なりといふことであり、従つて、預金の通貨としての活動が盛になつても、これによつて預金の投資に向けらるゝ部分が、その割合に減少せらるゝものでないといふことである。換言せば、預金は一方に於て通貨として働きながら、同時に他方に於て、そのまゝ投資に向けられ得る性質をもつといふことである。

銀行は、現金を以て引出さるゝ部分の預金は、必ず支拂準備として保留しなければならぬは勿論であるけれども、併し、他方には、現金の受け入れもあるのだから、必ずしも支拂現金の全部を用意して置かねばならぬ譯ではない。また預金のまゝにて支拂に充てらるゝ部分についても、自行の取引先甲が、同じく自行の取引先乙に對して支拂をなす部分、すなはち、自行宛手形小切手に對しては、支拂準備を必要としない。たゞ、自行の取引先甲が他行の取引先丙に對して支拂を

なす部分、すなはち他行宛手形小切手に對しては、日本銀行に於ける預け金を以て支拂準備としなければならぬ。

併し、この場合に於ても、各銀行相互の間には、毎日交互に受渡をなすべき手形小切手があるのであり、それがために手形交換所に於て交換を行ふのであつて、その交換による相殺部分は、支拂準備を必要とせず、たゞ負けとなりたるときの交換尻に對してのみ（受取高よりも支拂高の超過したるときそのその超過額だけ）、支拂準備をもてばよいのである。

昭和九年十月三十一日及十一月一日
手形交換高及交換尻（單位千圓）

	十月三十一日		十一月一日	
	高	尻	高	尻
東京	109,154	25,958	200,865	29,808
大阪	91,870	13,596	139,008	11,969
神戸	34,231	7,257	31,365	8,340
京都	8,091	805	15,225	2,219
名古屋	11,177	1,953	14,845	1,972
横濱	7,712	2,219	7,222	1,654
合計	262,235	51,803	408,539	55,962
	19.6%		13.7%	

昭和九年十月三十一日に於ける、六大都市手形交換所組合銀行の預金總額は、五十六億四千五百餘萬圓であるが、當日の手形交換高は二億六千二百餘萬圓であり、その中、交換尻は僅にその約二割の、五千一百八十萬圓に過ぎず、預金に對しては、僅に九厘見當である。翌十一月一日の交換高は、四億八百餘萬圓、交換尻はその一割三分七厘の五千六百萬圓弱、預金に對しては、凡そ一分見當である。

かくの如くであるから、銀行が預金に對して支拂準備としてもつべき金額は、預金が現金通貨として及び預金通貨として活動する金額よりも遙かに少額にて足るのである。大藏省調査にかゝる全國普通銀行の昭和九年十月末

日の預金總額は、九十億二千五百萬圓であるが、その現金準備は四千四百萬圓であり、交換尻準備としての日本銀行預け金は六千七百萬圓見當である。従つて、八十九億圓ほどは、預金の中から投資に向けられ得るものである。

預金の増加は、潜在通貨の増加たるを意味する。そしてまた現實に於ても、或は現金にてまたは手形小切手の類を以て、通貨として活動する量も多くなる。併し、預金が通貨として活動することが多くなつても、それだけ支拂準備とすべき額を増加する譯ではなく、支拂準備率は、通貨としての預金活動率の増加よりも遙に少き割合に於て増加すればよい。従つて、預金の増加に従ひ、その通貨として活動する率が増加しても、預金の投資に向け得る率が縮少するのではなく、むしろ、これも同時に、増加するのである。それゆゑに、預金通貨の活動は、遊資の増加を防げることゝはなるものではない。預金は一方に於て通貨として活動しながら、その活動しつゝある預金の大部分が、同時に他方に於て、投資せらるゝことが可能なのである。これを、更に言葉を換て言へば、預金なるものは、極めてその一小部分は、通貨として働くために、全然流動状態に於て置かねばならぬが、併し通貨として現實に活動しつゝある預金の大部分は、また何等かの目的に投資されたまゝの固定状態で同時に通貨たるの流動状態に在り得るものだといふ、甚だ奇妙な性質をもつものである。

今日の經濟機構に於ては、通貨が圓滑無碍に流通することによつて、總ての經濟活動が、また圓滑無碍に運行するのである。もし通貨の流通が不圓滑となるか、または停止することあらば、經濟活動も亦、不圓滑となり、または停止するに至る。然るに、この通貨は今日の貨幣制度の下にあつては、預金の引出として世の中に在るか、または貸出を受けて世の中に在るか、このいづれかである。そして、預金も亦、多くは、貸出として銀行と借手との間に創作せられたものである。

政府勘定すなはち政府預金を、民間預金とは別種のもつとして取扱ふときは、政府預金の民間預金への移行、すなはち政府支拂は、民間に於ける銀行預金の實質的増加と認めることが出来るし、またその引出による通貨も從つて實質的な存在と認めることが出来る。併しながら、もし政府勘定と民間勘定とを合併して考察するとせば、通貨も預金も、共に、それが實質的に存在するものとしては、金地金が貨幣的金となりたる金額以外にはない譯である。その他のものは要するに、各種の形式に於ける銀行よりの貸出に裏付けられて成立して居るものと見るの外はない。果して然りとすれば、預金及び通貨の成立の裏付けとなる貸出を與へる所の銀行信用なるもの、機能は、頗る微妙なるものと言ふべきであらう。

—(九・十二・十六)—